



徳島大学外科同門会だより



徳島大学外科同門会 発足に当たって...P.1

次世代の育成に
循環機能制御外科
北川 哲也

若い外科医へ
臓器病態外科
島田 光生

鬼手 仙心
病態制御外科
丹黒 章

平成16年度後期 卒後臨床研修優秀指導医の表彰について...P.4

卒後臨床研修センター長
北川 哲也

徳島大学外科同門会会則(案)

外科専門医制度...P.5

徳島大学関連外科専門医制度修練施設群...P.6

外科運営会議...P.7

外科Grand Conference

編集後記

昨年4月に臓器病態外科に島田光生教授が、同年12月には病態制御外科に丹黒章教授が就任し循環機能制御外科の北川哲也教授と合わせ徳島大学外科の新時代が到来した。昨年4月には消化器外科が島田教授のもとに統合され臓器病態、病態制御の2講座が合同で診療に当たるようになり、今回は3講座が合同して新たに徳島大学外科同門会を発足することになった。

変革は痛みを伴うものである。また、中国、韓国、日本、近いものほど利害関係があり対立する。

だが、我々は医師である。患者ら他人の痛みを理解する立場の者である。互いに相手を理解し合うよう努力すれば何事も解決できないはずはない。

今回、同門会の一員となられた方々は同じ徳島大学外科の仲間としてより賢明な道を歩むと信じている。

編集長 梅本 淳 [病態制御外科]



徳島大学外科同門会だよりNo.1

徳島大学外科同門会事務局:

臓器病態外科教室内
〒770-8503
徳島県徳島市蔵本町3-18-15
tel:088-633-7139
fax:088-631-9698

発行日: 2005年(平成17年)4月23日

外科運営会議

第1回	平成15年	月	日
第2回	//	10月	20日
第3回	//	12月	1日
第4回	//	12月	日
第5回	//	12月	12日
第6回	平成16年	1月	19日
第7回	//	月	日
第8回	//	2月	23日
第9回	//	3月	22日
第10回	//	4月	19日
第11回	//	5月	24日
第12回	//	6月	21日
第13回	//	7月	日
第14回	//	8月	日
第15回	//	9月	22日
第16回	//	10月	27日
第17回	//	11月	24日
第18回	//	12月	8日
第19回	平成17年	1月	26日
第20回	//	2月	23日
第21回	//	3月	23日

外科Grand Conference

第1回	平成16年	1月	21日
第2回	//	2月	4日
第3回	//	3月	3日
第4回	//	3月	17日
第5回	//	4月	14日
第6回	//	4月	28日
第7回	//	5月	12日
第8回	//	5月	26日
第9回	//	6月	2日
第10回	//	6月	16日
第11回	//	7月	7日
第12回	//	7月	21日
第13回	//	8月	4日
第14回	//	8月	18日
第15回	//	9月	1日
第16回	//	10月	13日
第17回	//	11月	10日
第18回	//	12月	22日
第19回	平成17年	1月	12日
第20回	//	2月	9日
第21回	//	3月	9日
第22回	//	4月	13日

徳島大学外科同門会
発足に当たって

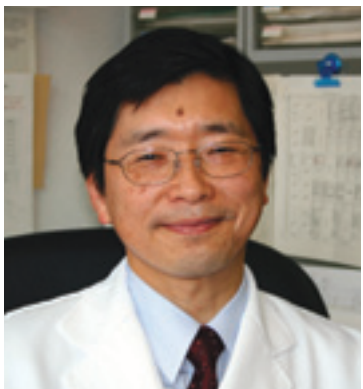
次世代の育成に

”魅力的な外科医”がキーワードです!!

循環機能制御外科
北川哲也

春暖の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

かねてより、卒業臨床研修を終えた外科志望者を受け入れ、彼等の外科トレーニングを支援し、次世代を担う外科医を育成し、徳島大学外科の発展、隆盛を図る”目的で、新しい”徳島大学外科同門会”を発足させた旨を、皆様にご相談してまいりました。これは、臓器病態外科 島田光生、病態制御外科 丹黒章ならびに循環機能制御外科 北川哲也の共通の思いでありますが、本主旨をご理解戴いた370名の皆様が新しい”徳島大学外科同門会”へ入会され、この度、第1回同門会総会を開催で



ますことに大変感謝申し上げます。外科医になろうとする、たのもし、初期研修、後期研修を有意義に過ごさせ、海外留学、国内留学、大学院生活等を経て、それぞれ目指す医療人へと育てるために、先輩として必要な知識や技術を伝授するシステムと人間関係を再構築することが、この新しい”徳島大学外科同門会”の設立の意義であると思います。諸先輩達の熱きエールのもとに、将来、地域医療で活躍する外科医、高度医療を担

う外科専門医を育てようではありませんか。我々は、この度、選任される本同門会の初代会長と手を携えて、徳島大学外科の発展のために、力を尽くしたいと考えていますし、更に5年経つて同門の皆様”に”よかった”と言っていただけのように徳島大学外科をまとめていくことが責務であると思っております。

これからの外科医をとりまく環境の変化は大きく、そして厳しく、外科関連専門医の修練システムの quality controlと、外科関連専門医ならびに専門修練施設の quantity controlが急速におこなわれてくるでしょう。我々自身、社会がそれを要求していることを認識する必要がありますし、一般社会と外部の専門医による評価にも耐えられる修練システムを構築する必要があります。人口の少ない地方大学だから、地方の病院だからといった甘えは許されず、大学と個々の修練施設で協力して、よりよい外科医修練システムを再構築すべきです。まず、基幹となる外科専門医を効率的に取得させることが先決ですが、それには、引き続き subspecialty専門医、大学院コース等の後期専門研修を意識しておくことが重要です。本年度か

ら、外科専門医修練人事を”大外科”としておこないましたが、若者の思い、研修病院個々の在り方等が錯綜し、様々な問題点がみえてきました。本同門会は、そのような問題を改善する潤滑油であって欲しいとも思っています。

何卒、新しい、徳島大学外科同門会”に、ご支援、ご指導戴きますようお願い申し上げます。末筆になりましたが、まだまだ朝夕肌寒き折、お身体をご自愛いただくとともに、皆様方ますますのご発展を祈念いたします。

若い外科医へ

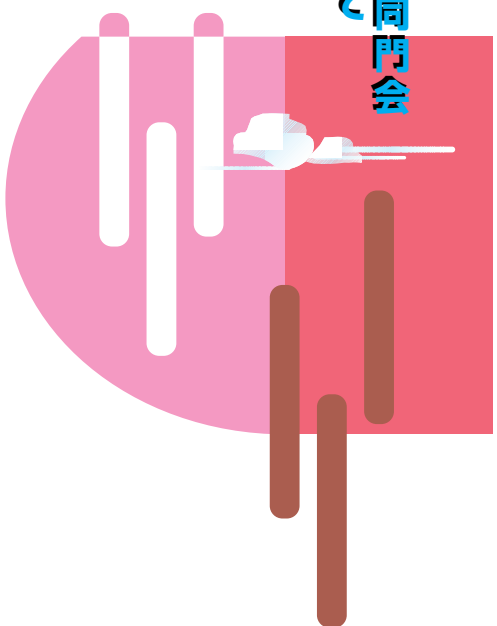
臓器病態外科
島田光生

このたび臓器病態外科学講座、病態制御外科学講座、循環機能制御外科学講座が一致団結して、新たに徳島大学外科同門会を発足させることができたことは、今の医学・医療の大変革期において大変インパクトのある出来事と考えています(図1)。

外科がこのよう有機的統合形態をとり、診療、研究および教育で効率的で質の高い仕事ができるようになった大学は他にありません。今後、徳島大学外科同門会が徳島大学外科の益々の発展に名実ともに核となるようみんなで力を合わせて頑張りたいと思っております。

臓器病態外科学講座は、徳島大学病院で消化器外科、小児外科を担当しています。現在、消化器外科では肝移植をはじめ、胃癌、大腸癌、肝胆

徳島大学外科同門会
発足に当たって



腺癌などに対する鏡視下手術の標準化や、分子生物学的研究に基づいた消化器癌に対する個別化治療の開発などに取り組んでおります。また小児外科でも積極的に鏡視下手術を行い日本のリーダーとして地位を確立しています。臨床では「拡大切除・機能喪失から低侵襲 再生外科へ」をスローガンに、一流の外科臨床が出来る環境を整えることを目指して日夜研鑽を積んでいます。

ンコラ整備を経て、2005年2月より3例施行できました。現在、肝移植のみならず、肝細胞移植や脾臓・脾島移植の臨床応用を目指して、新たな再生外科を徳島大学に根付かせるため基礎研究も行いながら努力しています。また、古味先生の時代からの伝統ある小児外科を名実ともに四国、西日本の雄としてその地位を確立させ講座へと昇格させるという目標実現のために、若い力と叡智を結集させて努力しています。

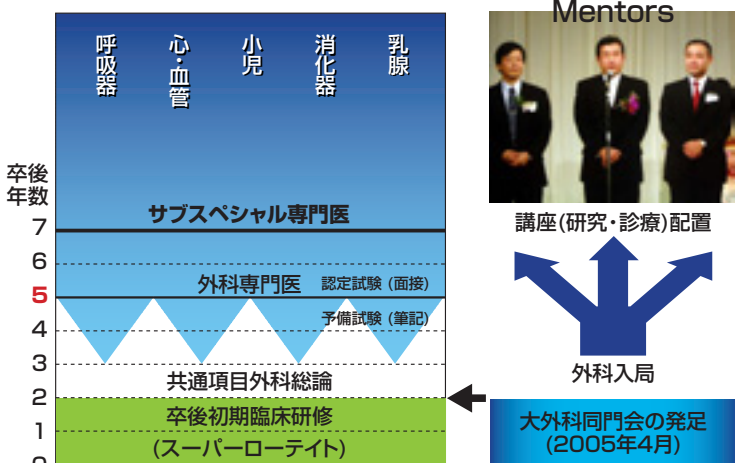
私が着任してからのひとつの大きな目標でありました生体肝移植も、徳島大学病院全体の協体制の中で、肝移植適応評価委員会、インフォームド・コンセント委員会の設置などのイ

な再生外科を徳島大学に根付かせるため基礎研究も行いながら努力しています。また、古味先生の時代からの伝統ある小児外科を名実ともに四国、西日本の雄としてその地位を確立させ講座へと昇格させるという目標実現のために、若い力と叡智を結集させて努力しています。

私は、ビーター、ラッカーの「不得手なこと」の改善にあまり時間を使っているのには、得意を超流にするより

夢を追う若人よ、来たれ阿波の国の外科へ。 Welcome to Ambitious Young Surgeons!

図1 良き外科医の育成 外科同門会への道



員の皆様、そして関係者の皆様、新たな徳島大学外科が大きく飛翔できるようお願い添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

外科医は3Kとよく言われますが、3Kにもまして得難い充実感、満足感があります。本当の外科医の喜び、外科研究の楽しみを味わいたい若人を心より歓迎します。

夢を追う若人よ、来たれ阿波の国の外科へ。 Welcome to Ambitious Young Surgeons!

全国の大学、基幹病院は徳島大学外科に注目を!!
患者様にやさしい最高の臨床研修の場を
提供できることこわれわれは燃えています

鬼手仏心

病態制御外科
丹黒章

昨年12月の赴任前より、徳島大学の外科が全国の大学に先駆け、従来の医局の壁を越え大外科として行動しようとしていることは知っていましたが、赴任してみてもその成果を再確認いたしました。医局の障壁を排除する為の診療科再編成は全国の大学病院や基幹病院でも進行中ですが実態はなお旧弊に縛られ上手く機能していないのが現状です。現在、徳島大学は診療科として病態制御外科が呼吸器外科と食道・乳腺甲状腺外科を、臓器病態外科が小児外科と消化器外科を運営しています。消化器外科には病態制御外科からも梅本淳助教が副科長として、本田純子助手が外来医長として、病態制御外科の医員が消化器外科担当医として島田光生教授の指導の下、日夜診療にあたり、カンファレンス、研究発表会にも参加しています。月に度は泌尿器科を交えたグラウンドカンファレンスが開かれ、症例を検討し、大外科運

営会議も毎月開催して大外科として行動を共にしています。

この学内の大外科運営をよりスムーズに行うためには教室間の融和だけでなく同門会の融和が必要不可欠です。心臓血管外科は第一外科と源を共にしています。しかし、第二外科は第外科から分家したものではなく、独立して設立されたものであり、第二外科にこだわつて入局された先輩も多いと聞いております。私は昭和56年に徳島大学を卒業後、故郷山口に帰り、消化器外科とくに食道外科を専門とする第二外科に入局しました。平成10年に助教教授になってからの私の課題は山口大学の二つの外科をどう融和させるかということでした。幸い私の専門とする食道外科、乳腺・甲状腺外科においては私の開発した手術手技や検査法が国内外に



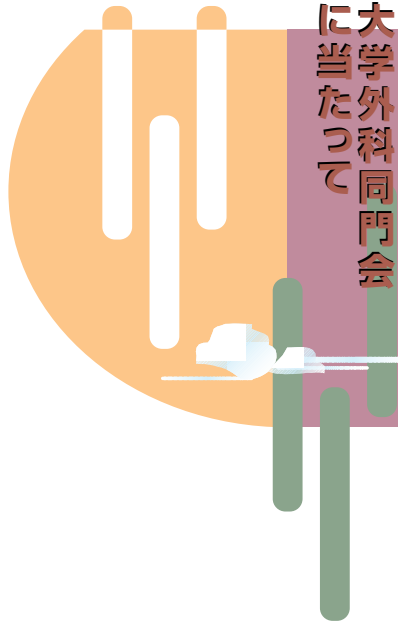
科を専門とする第二外科に入局しました。平成10年に助教教授になってからの私の課題は山口大学の二つの外科をどう融和させるかということでした。幸い私の専門とする食道外科、乳腺・甲状腺外科においては私の開発した手術手技や検査法が国内外に

も認められてきたこともあって学内はもちろん関連病院の先生方も皆、医局の壁を越えて集まり勉強して参りました。しかし、他の分野では学内も関連病院や同門会にある亀裂は埋まらず改革を推進するにはどうすればいいのかと苦慮いたしました。「外科全体を応援する同門会を新たに作つてしまつ。構成員は新しく大外科に所属する人と旧医局の同門会に属し、変革に賛同される先輩方。」この素晴らしい発想に本当に感心するとともに、旧来の医局の壁に不都合や近代化への障壁を感じている全国のナンバー外科(内科)をもつ大学に範たるべく、是非とも推進しなければならぬという使命感を抱きました。「鬼手仏心」という言葉は外科医の目指すべき精神的な調和と卓越した技能を標榜したのですが、鬼手仏心に

は、仏(ほとけ)のころをもち、現実に対し思い切つた手を打つ、という意味もあります。鬼手は、習慣的な大方の予想を裏切る意外な手であります。鬼手を打つには、勇気と慈しみの心が必要です。お互いに相手を認め、患者様や将来を担う若い後生に目を向け、勇気を持ってこの調和を推進して行きましょつ。そしてやりたくとも成しえない多くの大学に向けてその成果を発信する徳島大学でありたいと考えております。

大同団結の目的は外科医を指す若き学徒に充実した研究や臨床研修の場を提供することと患者様に安心できる最先端の医療を提供することです。徳島大学外科が魅力ある臨床研修の場となるように、後期研修を充実し、大外科としてレジデントを受け入れ、関連病院と連携して徳島大学全体で若い人たを育くむ円滑なローテーションシステムも間もなく出来上がります。若い人たちが医局の壁を越えて切磋琢磨し、世界を目指して研鑽を積み、その若

徳島大学外科同門会
発足に当たつて



い力に支えられた徳島大学病院が地域の大学病院として患者様に心のごもつた最高の治療を提供できるように医師、看護師、薬剤師、栄養士、事務官が目的に対して心をつにす。その皆の仏心が集まること、理想を実現する第歩が大外科であります。その後援会である大外科同門会発足にあたり心より喜びをかみしめ、その当事者の一人であることに自を捨て他に尽くす緒方滝庵先生の示された医師の心得を噛みしめながら今一度身を引き締めております。

平成16年度後期 卒後臨床研修 優秀指導医の表彰について



左から心臓血管外科・来島敦史先生、消化器外科・森根裕二先生、泌尿器科・岸本大輝先生。



最優秀指導医の外科武知先生

昨年度から開始された卒後臨床研修年目の内科、外科および救急の基本研修において、研修医の指導に直接携わつた指導医の中から、優秀指導医を研修医からのアンケートを基に選出しました。

最優秀指導医としては外科・武知弘和先生、優秀指導医として消化器外科・森根裕二先生、心臓血管外科・来島敦史先生、泌尿器科・岸本大輝先生の計4名が選出され、4月6日に病院新規採用者オリエンテーションの席上で、香川征病院長より表彰されました。

卒後臨床研修センター長
北川哲也

徳島大学外科同門会会則(案)

- 第1条(名称)**
本会は徳島大学外科同門会と称す。
事務局は徳島市蔵本町3丁目18番地の15徳島大学医学部におき、臓器病態科、病態制御外科、循環機能制御外科学教室の2年毎の持ち回りとする。
- 第2条(目的)**
本会は会員相互、会員と教室間の親睦、福祉をはかり、学識を換し、会員ならびに徳島大学外科の発展、隆盛を図ることを目的とする。
- 第3条(事業)**
前条の目的を達成するために次の事業を行う。
■ 同門会総会
■ 外科記念会
■ 会報の発行
- 第4条(会員)**
本会の会員は徳島大学外科の教室員と教室出身者をもって会員とする。なお旧外科学第一講座、旧外科学第二講座、心臓血管外科同門の入会は任意とする。
- 第5条(役員)**
本会には次の役員を置く。
1 会長 1名
2 副会長 3名
3 理事 約6名
4 監事 2名
5 役員 選出
a 会長は同門会会員の中から選出する。次期会長の選出は、役員会で推薦し、総会にて決定する。
b 副会長は臓器病態外科、病態制御外科、循環機能制御外科学教室の現職教授を推薦する。
c 理事および監事は、会長が同門会会員の中から選任し、総会にて承認を得る。
d 役員 任期はいずれも2年とし、留任を妨げない。
e 任期満了といえども次期役員 選出までは業務を遂行する。
6 事務局幹事 1名
事務局を司る事務局幹事は、事務局をおく教室の副会長が選任し、総会の承認を得る。
- 第6条(役員会)**
会長は、本会の目的を達成するために、会長、副会長、理事および監事から構成される。

- 第7条(総会)**
年一回、同門会総会を開催する。議長は会長が兼ねる。総会は、正会員の3分の1以上が出席しなければその議事を開き、議決することができない。但し、予め議事の委任を、書面で意志表示したものは出席者とみなす。
- 第8条(外科記念会)**
本会は総会と併せて外科記念会を開催する。
- 第9条(諸報告)**
総会においては会計報告、庶務報告などを行い会員の承認を受ける。
- 第10条(会則変更等)**
会則の変更ならびに本会の運営事項は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長が決するところとする。
- 第11条(会費)**
本会会員は会費を納付すべきものとする。会費は年額10,000円とするがその額の変更は総会において決定する。
- 第12条(経費)**
本会の経費は会費と寄付金等をもつてこれにあてる。
- 第13条(会計年度)**
本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり3月31日に終える。

徳島大学関連外科専門医制度 修練施設群 (平成17年4月現在)

*修練医は外科専門医取得対象者(主として平成14年以降の卒業者)
**5月から赴任予定

県	病院名	外科学会		消化器外科		呼吸器外科		心臓血管 基幹	小児 外科	乳腺 外科	修練医数*
		指定	関連	指定	関連	指定	関連				
1 徳島	徳島大学病院	○		○		○		○	○	○	3
2	徳島市民病院	○		○			○				
3	徳島県立中央病院	○		○			○			○	2
4	健康保険鳴門病院	○		○							
5	徳島赤十字病院	○		○			○			○	1
6	阿南医師会中央病院	○			○					○	
7	麻植協同病院	○		○							
8	三好病院	○		○							
9	徳島健生病院		○								
10	沖の洲病院		○								
11	田岡病院		○		○						
12	徳島通信病院		○		○						
13	阿波病院		○								
14	徳島県立海部病院		○		○						
15	海南町国民健康保険海南病院		○		○						
16	独立行政法人国立病院機構徳島病院		○								
17	独立行政法人国立病院機構徳島病院		○		○						
18	JA徳島厚生連阿南共栄病院		○		○						
19	由岐町国民健康保険由岐病院		○								
20	日和佐病院		○								
21	町立半田病院		○								
22 香川	高松市民病院	○		○							1
23	高松赤十字病院	○		○		○				○	
24	独立行政法人国立病院機構善通寺病院	○			○		○				2
25	独立行政法人国立病院機構香川小児病院	○							○		
26	香川県立津田病院		○								
27	香川県立白鳥病院		○								
28 愛媛	愛媛県立中央病院	○		○				○	○		2
29	松山赤十字病院	○		○					○		1
30	愛媛県立新居浜病院	○					○				1
31	公立学校共済組合四国中央病院	○		○							
32	渡辺病院	○									
33	医療法人真泉会第一病院	○									
34	愛媛県立伊予三島病院	○									
35	愛媛県立今治病院	○		○							
36 高知	高知県・高知市病院組合立高知市民病院	○			○						
37	独立行政法人国立病院機構高知病院	○		○			○				1
38	高知赤十字病院	○		○			○				3
39	土佐市立市民病院		○								
40	JA高知病院		○								
41	中村市民病院		○		○						1**
42	佐川町立国民健康保険高北病院		○								
43 兵庫	兵庫県立淡路病院	○									2
44	中林病院		○								
45 沖縄	浦添総合病院						○				

外科専門医制度

平成14年4月10日付で施行された本会外科専門医制度規則では、外科専門医のための修練期間として通算4年以上と規定しました。しかし、厚生労働省は今般の専門医広告の規制緩和に伴い、専門医の修練期間は5年以上であるという条件を公示しました。したがって、当初の規則では外科専門医資格を広告することが認められないことになってしまっています。そこで、本年2月14日に本年度第2回臨時総会を開催し、外科専門医のための修練期間を通算5年以上として外科専門医制度規則を改正することが全会一致で承認されました(本年度第2回臨時総会については雑誌第104巻第3号に詳細を掲載)。これにより、外科専門医資格の広告を認可するよう厚生労働省に申請致しました。

立に向け、ご協力いただきますよう改めてお願い申し上げます。
なお、作業スケジュールの都合上、外科専門医についてのオンラインシステム内の項目に訂正前の文言が残っている箇所がありますが、追って変更致しますので、宜しくご了承下さい。

1 試験
修練開始後満4年以上を経た段階で(原則として修練開始登録を行った日付より厳密に算定：下欄参照)、予備試験(筆記試験)を受験することができます。合格者には終身有効の予備試験合格証が交付されます。予備試験合格者は修練開始後満5年以上経て、かつ規定の修練をすべて経験した段階で認定試験(面接試験)を受験することができます。合格者は外科専門医として認定され、有効期間5年の認定証が交付されます。

なお、関連外科専門医資格取得を目指す場合は、全期間を通じてそれぞれの関連外科専門医制度の修練を行うことを妨げません。

2 最低手術経験数
外科専門医のための修練期間が1年延長されたことによる関連外科

最低手術経験数

	新	旧
消化管及び腹部内臓	50例	80例
乳腺	10例	15例
呼吸器	10例	15例
心臓・大血管	10例	10例
末梢血管	10例	15例
頭頸部・体表・内分泌外科	10例	15例
小児外科	10例	15例
各臓器の外傷	10例	10例
鏡視下手術	10例	20例
計	130例	195例
術者として	120例	120例
最低手術経験数	350例	350例

専門医修練との調整に伴い、また、来年度より卒後初期臨床研修がスタートすることに鑑み、「外科専門医修練カリキュラム」の到達目標3に定めた最低手術経験数の内訳を別記のように改めること致しました。ただし、350例以上、うち術者として120例以上の経験という総数の変更は行いません。

3 修練開始登録
修練は修練開始登録を行った日付より厳密に算定されますが、来年度からの卒後初期臨床研修のスタート後は、研修期間満了後6ヶ月以内に登録した場合に限り、その研修開始時まで遡って算定することができますこととしました。これによって多様

な科を選択した方へも配慮するようにはしました。

4 更新
「外科専門医修練マニュアル」には、関連外科専門医取得者が外科専門医を更新する場合、諸条件や手数料の提出を求めない」と明記してありますが、厚生労働省の公示する専門医の広告基準には更新制を有することが条件とされており、このことから、関連外科専門医取得の有無に関わらず、外科専門医更新の手続きは全員にお取りいただくこととしました。併せて、本会定期学術集会への1回以上の参加を義務付けることに致しました。